

第2回望ましい教育環境あり方検討委員会会議録

平成28年11月18日金曜日 午後3時から
九戸村公民館 HOZホール

出席者

岩手大学教育学部	教授	田代高章
九戸村議会	議長	上村昇
九戸村議会 総務教育常任委員長		中村國夫
九戸中学校PTA代表		尾友一雄
戸田小学校PTA代表		橋本健一
山根小学校PTA代表		田澤秀行
伊保内小学校PTA代表		斉藤真一郎
長興寺小学校PTA代表		中野剛
江刺家小学校PTA代表		七戸真由美
戸田保育園保護者会代表		觸澤英之
九戸中学校学校評議員代表		上村陞巳
戸田小学校学校評議員代表		村田勝義
山根小学校学校評議員代表		舘孝一
長興寺小学校学校評議員代表		高崎徳雄
江刺家小学校学校評議員代表		滝谷博
ひめほたるこども園評議員代表		石川ツエ
九戸中学校 校長		吉田竜二郎
長興寺小学校 校長		門ノ沢邦夫
ひめほたるこども園 園長		小井田まき子

欠席者

伊保内保育園保護者会代表	吉田一幸
ひめほたるこども園保護者会代表	市橋謙二
伊保内小学校学校評議員代表	小野寺エネ

事務局

教育長	漆原一三
教育次長	野辺地実
次長補佐	川原憲彦
指導主事	柳原政輝
主査	岩崎浩美
主事	佐賀友洋

【開会】

事務局

みなさん今日もたいへんご苦労様でございます。ただいまから第 2 回望ましい教育環境あり方検討委員会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局

本日は田代教授からご講義をいただきたいと思いますので、前半の進行を副委員長にお願いしたいと思います。副委員長よろしくお願いいたします。

副委員長

それでは早速でございますが、田代委員長より「これからの時代子供たちに求められる力は何か」と題しまして、ご講演いただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

— 講演 —

岩手大学教育学部 田代教授 「これからの時代子供たちに求められる力は何か」

副委員長

田代委員長ありがとうございました。それではせっかくの機会ですので、たくさんのお話をいただきましたがご質問をお受けしたいと思います。このところがわからないとか、もう少し詳しくとか、感想も含めてで構いませんのでいかがでしょうか。

委員

こういったデータを見た時に思うことがあるのですが、間違った見方等あれば思のですが、資料の 3 枚目になります。国の調査での「青少年の社会参加意識について」というデータや、その下にある「今の子どもにつけさせたい力」、自分自身もそんな力はないのですが、そうした際に、例えばということで上のグラフにある「社会の問題に寄与したい」というのが日本は低い。それから「社会現象が変えられるかもしれない」という意識も低い。おそらく国の状況等をどう見るかというのもあると思うので、今がどうあってどう変えればいいのかというのも状態の中にあると思うわけですし、高ければいいのかというところ。国はどう見ているかわかりませんが。例えばこれが成熟化社会であれば、例えばそれ以上の変革。先ほどの最後に規範意識。社会と従っていくにはその中で社会を変えるという考えになると思うのですが、このところを子供たち、13 歳から 19 歳の子供たちがどうとらえながらこう答えていったのかというのはわからないわけですし、世界と比べたときにこうだ、だからこうだという、そうした中でやはり学校は集団行動で子供たちに主体性とかをつけさせたいとは思いますが、一方でマスコミとかではできるだけ面白おかしくとか、そういう風潮もあるわけで、そうした学校だけの環境の中で子供たちが育っているわけではなく、家庭地域を含めて、また情報やらを含めた状況の中で生きているのだと思いますので、もしも我々教師もその末端にあるかも知れませんが、だとすればそういった力が衰えていくのならば、やはり世間になりますかね情報等マスコミ等を利用しながら申し述べていただけれ

ばありがたいなと思いました。

委員長

そうですね。資料は資料ということで一つのサンプルとして使っているとお考えいただいたらいいのかなとは思っています。もちろん詳しいいろんな背景、あるいはファクター要因等がありますから一概にこれだけで導くのが難しいとの意見もあると思います。ただよその国の子供たちと比較したときに社会現象が変えられるというのは、社会の問題に関心を持っているからなのです。そういう部分でとらえたときにやはり低いというふうに理解することも可能だということで求めてこういう資料を使っているということになります。それをたとえば文部科学省等がこういう資料を上げながら子ども達の社会参画意識がひくいというのは、いろんたとらえ方があるのだらうと思いますけれども現時点ではこういうかたちで、社会の問題に対するとらえ方とかあるいは社会参画に対する意識というレベルで今回は紹介させていただいたと。そういうことでよろしいでしょうか。

副委員長

ありがとうございました。関わっても構いませんし別のことでも構いませんが皆さんいかがでしょうか。

委員

はい。

副委員長

どうぞ。

委員

どうもありがとうございました。今そちらに再度出ているスライドのところに、下線を引いた部分が先生の特に重要と考えているところなのですが、九戸村の小学校の現状、特に小規模校だけがたくさんある状況で、特にどこがまずいだろうというか、つけさせたい力ということで考えたときにここが難しいというのはどこになるのでしょうか。

委員長

なかなかそこも難しさはあるだらうと思いますけども、小規模ということを前提に考えるとすれば、これで行けばコミュニケーションの部分が一つ。大きいくくりで行くとローマ数字のⅢの対人関係形成・社会的能力といわれる部分で、より多くの他者と自分の思いを伝えあう力と考えていただいた方がいいと思いますが、その部分ではやや課題があるかなというところ。それともし上げるとすれば協調性という部分でより多くの人々との間で協調の仕方、協力・協同の仕方を学んでいくこと。人数が少ないとそれだけ人とのかわりや世界が狭くなりますので、その協力の仕方というのにもやや一定程度限界が出てくるかもしれません。そうすると協調性辺りというのもこれから九戸の子供たちには求めら

れる力なんじゃないかなという気はします。それから他者理解も関わってくるかなと。多様性というのがベースにはありますが、いろんな価値観を持ったりと性格を持ったり得意不得意を持ったりより多くの見方考え方を持った他者と出会うこと。それによって自分の世界とか自分の物の見方考え方を広げていく。その部分も含めた他者理解の力については、いろんな交流をしたりあるいは地域の大人たちと関わったりすることを保証できないわけではありませんけども、その部分が学校の規模が小さくなると子供たちの世界というのもある意味閉じられる部分が出ざるを得ないのかなと考えますが、そうした時には他者理解の力をより広げていくということにおいては、もう少し小規模だと限界がみられる部分があるところです。あとは2番の高次の認知能力といわれる部分の、思考力の部分にもかかわってくるかなと思います。自分で考えるだけではなくて、仲間や友達からいろんな考え方があるということを知りながら自分の思考を深めていくという側面がりますので、そうしたときに人数が少なくなるとそれだけいろんな考え多様な方思考力、こうゆうふうな考え方に整理するのだということとであう機会が減ってしまいますので、そうするとまず論理的思考力にしても批判的思考力、創造的思考力に行けばなおさらだと思いますが、より多くの他者とかより多くの友達仲間と出会うことによって自分の思考というものがより一層深まる。そうゆう側面が出てくると思います。自分で思いもつかなかった考え方を「この人、するよね」とか。それからなるべく多くの人たちがいたほうが多面的な思考ということできやすくなると思います。そうゆうところ考えると思考力というところをより深めるという意味においてもある程度の数が必要といえるのかもしれない。

委員

関連しまして、現状その小規模の中で先生方から教育を受け、地域で最大限に子供達のために皆が協力して努力しているわけですが、今この現状の中ではこの点は逆に有利なのかなというところもありましたらお教えてください。

委員長

有利というか小規模というかこうゆう地域性の中で育まれているであろうということですよ。そのあたりのなかなか裏返しになる部分も出てくるかもしれません。人数が少なければそれだけ人間関係が密であるということで、より関係を作る力というものが密接であればこそとうことが、特にいろんな地域の、先生方もそうだと思いますが子供と教師が関わる人間関係の部分でも人数が少なければその子供をよく見ることが出来る。そうゆう意味では関わりやすくなる。そうゆう意味での関係づくりでメリットは出てくるだろうと思いますし、人数が少なければ一方でデメリットも出てくるかもしれません。子ども相互で小さいときから同じ空間で生きてきているからというところがあるかも知れませんが、同じ仲間としての意識がもし芽生えるならばその関係の密度といいいますか、濃密さといいいますか、その部分では逆にメリットになる。小さいころからよくお互いを知っているという意味の。大きくなればなるほど仲間友達よく知りません。場合によっては口をきいたことがないということがあるかはわかりませんが、あまり関わったことがない子供たちも出てくるかもしれませんが人数が少なくなれば少なくとも密接関わるが増える。それから4番の人間

的自立・生き方の主体性の部分でもあるいは自立性リーダーシップ、実行力でも人数が少ないがゆえに様々な経験値が高まると言いますか、役割が出てくると言いますか、例えば行事にしても、児童会生徒会にしても、あるいは部活にしても、ただ集団である程度の苦労を必要とする部活は厳しいと思いますが、キャプテンであったりリーダーであったり代表になれる機会が増えてきますので、そういう部分では主体性につながる場所としてのリーダーシップをより発揮しやすい環境は出てくるかなというのが一つはメリットとして言えてくるかなと思います。他にもあるかもしれませんが、あとでこういう部分もあるのではないかなというのがあればまた指摘をいただければと思います。

委員

ありがとうございました。

副委員長

ありがとうございました。関わってあるいはその他ありませんか。

委員

すみません。一つお話ししたいのですが、先ほど説明の中で、社会状況を踏まえた学校教育の在り方についての中で、今の子供たちというのは学校で学んだあとそれが社会に行って生かされてはいないのではないかなという話がありました。もう一つはコミュニケーション能力と申しますか、弱いのではないだろうかと、その辺を強くしていかなければいけないという話がありましたけど、実際今度は学習指導要領も来年度改訂になっていくわけですね。そうすると学習指導要領の中で大きく変わっていく子供たちが、能力を身に付けるための指導と申しますか、そういうのはかなり置き換わっていくか、学習の中で生かされていくと言いますか、大きく出てくると言いますかその辺はどうなのでしょう。これからのことですが。

委員長

これから指導要領の改訂ということになってくるのですが、現時点で言えばこういう何ができるようになるかとか、資質能力がとか、これから社会に出たときに求められる能力というのをどう考えていくかということ意識する形での指導要領の改訂になってくる。その中では教科としての資質能力も当然出てくる。各小学校、中学校、高等学校そして教科ごと、さらには教科の中で培っていく必要のある物の見方考え方というものも明示すると言われています。さらにはそれを超えた部分で、どうゆう、つまり教科とか小学校中学校高等学校卒業したあと、教科を超えてどうゆう力が子供たちに必要なのかということ。これは今回私のほうで試案というような形で網羅的に出しましたけれども、特にこの中で教科を超えてどうゆう力が必要ですよ、こんな力をつけてくださいはいそれぞれ学校なり、もっと言えば地域で考えていただいているというようになるだろうと思います。その意味では国の方であらかじめこんな力を必ずつけなさいということ、明確に限定して示すということとはたぶんしないだろうと。地域の実態実情は、例えば東京あたりの首都圏とそれから岩手

当たりの地方ではかなり違いが出てきます。同じ岩手県内でも盛岡や北上や花巻の中核都市に該当する自治体と、そうではなくて例えば九戸であったり一戸であったりとか軽米であったりとか同じような状況かもしれませんがやっぱり違うと思うのです。そのあたりのところを国の方で学習指導要領を改訂したからこうゆう力をつけなさいと言うことを限定して示すということはしない。その意味では最後に私がこうゆうかたちで出しましたけれども、この中でどれを重点的に特につけさせたいのかはそれぞれの学校を中心としながら、学校を含む保護者と地域の皆さん方で併記していく必要がある。そうゆうかたちで動いていくのではないかと思いますし、そうゆう方向なのだろうと自分は理解しています。

委員

今の文部省、国の方々もだんだん学力思考といいますか強めていますよね。だんだん低年齢化してくると。強まってきますと本来子供たちが、私たちは遊び中心といいますか、勉強よりも遊びが中心だったのですけども、最近では学力、勉強の方が主体になってきているんじゃないかなと。本来子供たちは遊びと勉強の両立が主体となっていればいいと思いますが、学力の方が強く出てきている気がします。これから学習指導要領が改訂されると、よりそれが出てくるのかなという懸念じゃないのですけどもそのように感じますけど。

委員長

なかなか難しいところですが、学習指導要領という言い方をしますので、もちろん学力形成、学力向上は大きな課題です。ただ何のための学力かということがやはりいま問われているので、学力がついたらどうなるのですかと。その部分で人としての生き方と結びつかないところの学力はないだろう。そうゆう意味では人間としての生き方というのは、単に頭でっかちの知識をため込むだけではなくて、学力の中身というのは知識も大事ではあるのですが、スキルとしての能力も大事なのですけど、それと合わせて考えたり、あるいは自分なりの物の見方とらえ方ができるようになったり、人間としての生き方を確立出来たりというもう少し広い意味を込めて、その中の学力という位置づけをしていく必要がある。その意味では資質能力という言い方を今回して、ここでは力という言い方をしましたけど、学力というよりもっと広いもの。おそらく皆さん方のイメージされるものとして、習得すべき学力よりもっと広く、今回つけるべき力でも人間性というものをかなり強く打ち出していますので、そう言った遊びを通して得られる感性だとか、あるいは集団としての協調性とか、遊びを通して得られる想像力。イマジネーションだけではないクリエイティブな力。そうゆうものを学力とセットでどう育んでいくかということ念頭に置いた指導要領の改訂になっていくのが一つの方法です。

副委員長

よろしいでしょうか。それでは他にもご質問があるかと思いますが、時間も経過いたしましたので一旦ここでこの件についてはまとめとしたいと思います。それでは委員長貴重な講演ありがとうございました。ここで5分間休憩を取らせさせていただきます。

委員長

それでは後半の方に入りたいと思います。冒頭の式次第に従いますと、第4の協議になります。それで九戸村の子供たちの将来像についてということで、委員の皆様方と意見交流をさせていただければと思います。それで冒頭の方で、私の方から資料のお話もさせていただいて、こうゆう力が必要だということも、ある程度原案的な部分として一つのたたき台とお考えいただければよろしいかと思います。ただ後は委員の皆さんが日ごろ子供たちの様子、九戸村の子供たちのそういった実態からこうゆうような力が必要なんじゃないかと感じていることがいろいろあると思いますので、そのあたりのところを委員の皆さんから意見をお出しいただきたいと思います。せっかくの機会ですからなるべく多くの委員の皆さんにお答えいただきたいということで、こちらの上村委員さんから順番に、一言こうゆうふう子供たちに育ってほしいとか、あるいはこうゆう力があれば良いとか。力を具体的に明記されなくても、こうゆうことが必要なんじゃないかと日ごろお感じになっていることで十分だと思いますので九戸村の子供たち、ご自身のかつての時代と比較もされながらでもお答えいただければと思います。いかがでしょうか。

委員

自分の今まで感じてきたことを少し。まず九戸村のこれからの子供たちはということですが、年々子供の人数が少なくなっているのは事実でございます、その中で先ほど先生からお話が合ったように、人数が少なくなれば先生の目が届いている。やはり少ないところの生徒さん方はある程度勉強はしているなと思ってきたし、自分の時は伊保内だったから1学級57名とかおりました、その中でいつも竹竿を先生が持って何かするとパンとくるとかそうゆうところが大いにありましたけれども、今はないだろうけども。いずれ勉強、社会に出てから少ない人数で学校を卒業した。自分は勉強ができると思って社会に出たけど、やっぱり社会に出たときは大勢の生徒の中でもまれて勉強した方が力を発揮できるのかなと、自分の同級生を見たりして、自分なりに今は感じているところです。

委員長

はい。ありがとうございます。続けて委員の皆さんからご意見いただきたいと思います。尾友委員さんお願いできますか。

委員

九戸村の子供たちの将来像と申しますか、我々大人が将来どのような九戸村にしていきたいかということと関わると思うのですが、短時間で結論も出せないでしょうし、とにかく子ども達が将来大人になったときに自分や自分の身の回りの人たちを幸せにできる人間であってほしいという漠然としたイメージですけども、そういったものを私は抱いています。

委員長

ありがとうございます。いきなりここで明確にこんな力がと言われても出しにくいかと思いますので、現時点での考えでかまいませんのでまた後々ですね必要とあればそれぞれ

じっくり時間をとって考えていただくことも必要だと思います。

それでは〇〇委員さんお願いします。

委員

そうですね。短時間で話がまとまっていないところがあるのですが、先ほどの話を聞いて考えたことで、学校だけで考えることではなくて、家庭とか地域全体で考えていかなければならないこと、今、自分の小学校の子とかを見ても、いろいろ地域の方が小学校にきていろんなことを体験させてくれたり、指導してくれたりをしていて、そのような環境での体験とか自然の体験とかは自分が子供の時よりももしかすると多い部分もあるのかなと思ったり。先ほどの話の中で、小規模なことでメリットとして考えられる場合に、スポットライトが当たる機会が多くなるとか、出番が多くなることによって主体性とかを発揮する機会も多くなる可能性があると言うのであれば、強みとしてそう言ったところをもっとのばさしてあげることもむしろできるのではないかと、ちょっと明るいところとして考えたところです。先ほどの講義の中で、打たれ強さとか感動する心とか、もっと幼いときから、小さいときから養っていかなければならない側面もあるのだとの話もありましたが、やはり学校教育だけでなく家庭とか地域でどのように小さいときから子供を見守っていくとか、育てていくとかを全体として考えていかないといけないと思いました。親として、そう言う育て方をされてきた子ども達が将来大人になったときに同じように、小さいときから思いやる心とか感動する心をもった子供を育てていくこともできるのかなと思いました。将来につなげて行くに当たってその辺も考えて行かないといけないと思いました。

委員長

ありがとうございました。次に〇〇委員さんお願いします。

委員

学力とかについては沢山の同級生、子ども達の中で学習、学んでもらいたいと思いました。あと、やはり家庭とか地域とのつながりによって対人関係とか人間的自立とか生き方とか一人一人の力を付けていくと思うので、いまもやっていることですが将来も地域とのつながりを大事にしていきたいと思いました。

委員長

ありがとうございました。次に〇〇委員さんお願いします。

委員

将来像と言うことですが、将来どこでどういう事をして暮らすかどうかは、その子ども達なりに自分で決断すればいいと思っておりますので、ただ決断をしたときにどこに行っても、自立してやってゆけるように育てることが親の役目かと思います。

私個人としては、親、家庭がその子ども達に対して、責任を持つべきと思っていますので、そんなに学校とかの周囲の影響よりも家庭がしっかりしていれば全て問題が解決するので

はないかと思っています。周囲、家族をふくめ、大人の方は先が短いわけですから、子ども達優先で、大人が子供の犠牲になるべきだと思いますけど、子ども達を地域や大人の犠牲にすることだけは避けたいと思っています。以上です。

委員長

ありがとうございます。つづきまして、〇〇委員さんお願いします。

委員

皆さんよくすぐ答えられるなと思っていました。自分が少年野球を教える立場にいてすごく感じていることが、教える人が子ども達に答えを最初からおしえてしまう人が多いのかなと思います。自分もそうかもしれませんが、先ほどの話があったように、考える力というのがすごく大事だと思うので、練習するにしても、練習する前にもどうしたらいいか考えさせていくような練習をしていかないといえいかなければならないと教えながらも感じるようになってきました。最初から言ってもだめなときは練習をしたあとで、「こうなるには次はどうすればいいんだ」と考えさせることが必要だし、いろいろ間違っただけでできたとしてもこれは子供の考え方なので、これは自分(子供)から話してきたことはとてもいいことなので、自分の意見が出てくるような教え方をするようにしていけないと思っています。ただ、やろうと思ってもうまくいかないのが正直な所です。自分が少年野球や中学校で野球をやってきた中で、「こうしろ、ああしろ」とやはり強制的な練習ばかりだったと思う。今も強制的な練習も大事だと思うが、強制的な練習でも子供たちに考えさせる時間を与えることが必要で、やはり、考える事を教えるためのものであると思う。そういう時間を取りながら教えていかないと、これから子ども達は、ただただやる子ども達になってしまう。私も含めて、九戸で野球を教える人たちは全部答えをだしてしまっていると感じている。教える人たちも変わらないといけないと感じている。

委員長

ありがとうございます。つづきまして、〇〇委員さんお願いします。

委員

家でこうしなさい、ああしなさいと言わなくても自分から考えて行動することも。

委員長

よろしいですか。ありがとうございます。つづきまして、〇〇委員さんお願いします。

委員

あまり考えたことがなかったのですがけれども、私は子供の時に団体スポーツをやっていましたけれども、大きな大会とかにいくと萎縮してしまうことがありまして、大きな舞台にいったときにどうしても自分の力を発揮できないことが多々ありました。今はそうでありませんが、小さな村から大きな舞台に出たときに、自分の考えをはっきり言える、普

段やってきたことを自己アピールできるような子供になってくれればいいのかと思います。

委員長

ありがとうございました。次に〇〇委員さんお願いします。

委員

将来の子ども達と言うことで、細かいことではないのですが、小さな川で生まれた鮭が大海で育ってまた戻ってくるように、様々な教育をうけたり仕事をしたり経験を積んだ子ども達が自主的にここに帰ってきて、行政職であってもいいし、介護職であってもいいし、農業でもいいし、また、新たになにか起業するでもいいし、そのような思いを強く持った子ども達に育ってほしいと思っています。

委員長

ありがとうございました。次に〇〇委員さんお願いします。

委員

学校の取組ですが最近ずいぶん変わってきているのかなと。教育委員会もそうですが。学校の活動の取組が、以前は農業体験とか色々やっていたが、ところが何年前（何十年）からはそういうのがほとんどなくなってきていたが、またそれが最近復活してきている。すごくいいなと、いい意味で変わってきているのかなと。例を上げますと、ほとんどの小学校で農業体験をやる、米を作ったり色々な野菜を作ったり。それから自然を学ぶと言うことで遠足を復活させたり、それから教育委員会がよくやっていますが、村の宝探しをやっている。そう言う行事なんかも教育委員会も関係しているということで、非常にいいなと、いい意味ですごく変わってきていると思う。わたしも人生先が見えていますから、生きている内に子供らにいろいろな関わりを持ちたいなと思って一生懸命やっているわけです。それをやるにはやはり地域の力が、地域を巻き込んだやり方が一番いいのかなと感じている。そう言うことで今日のテーマに立ったやり方になるのかなと思いますが。この資料の最後のページ右側の上3-5④に人間的感性（五感・想像力・人や自然への感動）ありますが、昨日、保健センターの行事で「塩の道」ということで山に行ったのですが、そこに参加した68歳の女の人が、「花とか人がきれいだと言っても全くそう言う感じがしなかった」と「紅葉がすごくいいと言われても何も感じなかった」ところが「今年になってそれを感じるようになりました」とみんなで歩きながらいろいろな話をしながら、人がきれいだと言うのが感じるようになったという話をされていました。昔、教員をされた方のようなようです。その人の考え方が変わってよかったと話したところです。子ども達もそのような一つの体験と言いますか、今週の月曜日に、伊保内小学校の3年生17人でしたが、九戸村の塩の道を体験、体験したいということで、塩の道を歩いたのですけれども、そのなかで一生懸命勉強し、その帰りに、草が芽を出していたものを、「これなんですか」と聞かれ「これは春に出るふきのとう（ばっけ）だよ」といったら「何で今出るの」と「ここは日当たりいいので、もう芽をだしてい

るんだよ」そうしたら興味を示して家に持って帰りたいと、みんなで探し回ったのです。17人全員探せなかったが10個ぐらい探して家に持って帰り親に見せる。そう言う一つの自然を学ぶことをどんどんやっていったらいいのではないかと感じました。

委員長

ありがとうございました。次に〇〇委員さんお願いします。

委員

九戸の中でも一番小さい小規模ですが、子供を見ていると常に自分がリーダーにならないといけないと言う考え方を持っているのか、リーダーシップはあるなどみている。地域としても総合学習を通じていろんな経験をさせるようにしているとことですが。これから、私たちの時代とは違い国際化社会という時代がきておりますから、色々な考え方、色々な経験をうまくくぐっていけるような子供になってほしいなど。そして社会に出たなら何にでも対応できるような大きい心を持った子供になればいいなと思います。

委員長

ありがとうございました。次は〇〇委員さんお願いします。

委員

長興寺小学校の校長先生もきておりますので話しづらいですが。前に民生委員をやった時代もあり現在は評議員をやらせてもらっているが、見ていると長興寺小学校はけっこううまくやっている。なかなか顔を出せないですが、たまに顔をだして、校内マラソンやいろいろな行事もやっております。将来子供たちがさきほど委員さんの言ったように都会に出ていくわけです。全部。そしてその子供たちは、私が民生委員やっている時代に、親が「子ども達が家に戻ってこない」と。おじいちゃんが亡くなっておばあちゃんだけが残っている。そしておばあちゃんも病気で病院に行ったりして。民生委員やっていたとき連絡から何かから困ったのです入院させるときに。親戚も関係ないみたいな態度で、病院まで連れてったりして。そう言ったことがあってもなかなか連絡がこないのですよ。都会に行つて向こうに住んでおり地元に戻ってこないです。〇〇委員さんが言ったように戻ってくる子供たちに、戻らない子供にはなってもらいたくないなと思っております。そうゆう状態の長興寺ということで、将来こちらのお父さんお母さんを子供が戻ってきて家を見てもらえるようにしてもらいたいなど。定年になったら必ず戻ってくるようにした方がいいと思います。電話で対応すれば出てこないし、戻ってくる家がないみたいな話をする。東京の大学に入るのはいいのだけでも、大学出て就職して定年になったら戻ってきて親を見るような子どもになってもらいたいなど。向こうに行けば向こうのほうが暮らしやすいですが。定年後仕事もあれば、家はちゃんとあるわけですよ。長興寺に立派なのが。向こうに家を建ててこないことになる。隣の隣はなくなりましたから。1軒。そうゆうところを子どもたちがしっかり勉強して、九戸村を無くさないようにしてもらいたいと思います。以上です。

委員長

ありがとうございます。つづきまして〇〇委員さんお願いします。

委員

私たちが子供のころは九戸村でも一番人数が多い時代でした。一番少ない江刺家中学校だと思いますが、そのころ私たちの同級生というのが67人で、上が80数人、下が70数人。そのころ伊保内は100何十人だと思うのですが、その時代と比べたらどうだろうか考えると、例えば終業式とか卒業式だとかの時には「右代表なんの誰」でそれ以外は以下同文ということになって、活躍できる場面が非常に限られていたのではないかという感じがします。学習発表会で劇をやりと松の木の係だとかになるのですが、それと比べると小さい人数だと非常にいろいろなことに携われる。そうゆう機会がいっぱいあるということでそれが一つ。それから少人数だと先生が目も行き届いてかなりきめ細かな指導ができる、というようなことから言うと学習面でもレベルが上がっていく要素が、人数がいるよりは多いのではないかというような気がしております。もう一つは人数が少なくなってくると非常にやりづらい面があると思います。実は私もバレーボールに携わっていて、今伊保内小、長興寺小、江刺家小で一つのチームを作っております。始めて10年くらいは江刺家小のスポーツ少年団だったのですが、そこに今は3校。バレーボールチームももう一つ戸田にありまして、そちらも戸田小と山根小と伊保内小というふうに、例えば人数が必要な場合はそのような方法もあるのかなと。そして別にこれはスポーツだけじゃなくて、九曜塾だとかいろいろな活動についても学校の枠を超えていろいろな活動ができるだろうというところで、むしろ普段一緒にいない人とも付き合う機会が出来ていくことは非常にいいことだろうなと思ったりしております。「その頃合いをどの辺につけるのか」となるのですが、今のところの感じはそうです。

委員長

ありがとうございます。前回お休みでしたのでどういう位置づけなのかというところがあるかもしれませんが、今回は「どういう力を身に着ける必要があるか、子供たちの将来像をイメージする」というところを議論しようというところになっています。いずれは教育環境ですから、学校の規模も含めて適正配置・適正規模。それからその先の学校の形態の在り方も議論するという事になっておりますので、そのあたりのところをもう一度諮問をお読みいただければと思います。それでは〇〇委員さんお願いします。

委員

前回都合で欠席しましたが、この会議の場所に来て、保育園から電話があったときに「私でいいのかな」と安易に引き受けたのを今大変後悔しています。すごく大事な会なのに気軽に引き受けてちょっと今後悔しているところです。私は子供たちと外で会う機会が多いのですが、常々テレビで箸の持ち方とか鉛筆の持ち方がちょっと気になっていたところ、この間就学時検診の子供たちの見守りにきて、その時、待っている子供たちと塗り絵をしたのですが、塗り絵だったからなのかすごく鉛筆の持ち方が「下手だ」って言葉は適

切ではいかもしいですけど、高いところをもってみたり芯の近くをもってみたり、私が思っている正しい持ち方というかそれをしている子供がすごく少ないなというのが感じたところですよ。鉛筆の持ち方が中学校、高校に行ったときに書くときの速度につながると聞いたことがありましたけども、この頃ちょっと気になったのがそれでした。これから学校に行ったら治ってあげればいいなと思ったり、あともう一つ、子供たちは地域ではすごく気軽に挨拶してくれるので地域の人たちにも挨拶していますので、これからも自分の生まれ育ったところを大事にしていく子供になるというのを願っているところです。

委員長

ありがとうございます。それでは学校関係ということになりますが、〇〇委員さんいかがでしょうか。

委員

将来といますか、今も将来もできるならば夢を持ちながら、大きい夢小さい夢あると思いますが、追いかけていくといますか、目標を持って、豊かな人生とかあるいは生き方になると思いますがそういったものを持ってもらえればと思います。合せて自分の夢もあるだから相手の夢もあることを考えて協調性といいますか、そういったものを理解しながら人間の感性の魅力を高めてほしいと感じています。

委員長

ありがとうございます。それでは〇〇委員さんお願いします。

委員

ひめほたるこども園の保育をお話ししたいと思います。ひめほたるこども園では子供主体の保育を目指して進めているところです。遊びの中にこそ学びがあるという考えから、遊びの時間を十分に確保するということをしています。子どもの興味や選ばれた遊びの中には目的に向かって考えたり、試したり、友達との関わりとかいろいろ含まれていると。子どもたちは遊びを進めていく中でいろいろなことに気づき、生活行動の仕方を身に付けていきます。その遊びの中で葛藤とか、挫折感とか、達成感を味わいながら自らの課題を乗り越えながらということをしていくと思っています。その成長の中では友達同士のぶつかり合いも大事で、保育者は子供同士のけんかが始まって危険を伴わない限り手出しはしないということを原則にしています。トラブルは昔だったらすぐに止めていたのですが、叩かれて泣いていると、叩いた方だけを責めていたのですが今は違います。お互いに言い分を聞く、そしてよくよく聞いてみると泣いている子が悪いということがけっこうあるので、お互いに言い分を聞いて解決にもっていくということをしています。保育士が関わらないことで子供同士が解決しようという姿も見えてくるので、これはいいことだなと思っております。自分たちで話し合っていくとそこには大きいグループが入ったり、しっかりした子が入ったりというように横のつながり縦の関係が出来たりして良い関係を築いているので、私たちはなるべく様子を見守りながら対応しています。

講義の中にもありましたけれども「生きる力」を養うには、小さいうちが大事だよという話もあってその通りだと思います。「ひめほたるこども園は幼稚園もあるから勉強も教えますか」と聞かれることもあるのですが、保護者の皆さんには「遊びが今大事だよ」と「遊びの中に学びがあるのだよ」ということで、言葉だけでは伝わらないので写真を提示して今年6月から、「遊びの中でこうゆうふうには育っているんだよ」とクラスごとに掲示板を使って発信しておりますが、少しずつ保護者の方にも理解してもらえるようになったかなと思っています。まだまだ始まったばかりで「遊びが学び」と理解にいたっていないのですがそこを目指しています。勉強という言葉は使いませんが、遊びの中で数的な数とか言葉とか、言葉遊びとかしりとりとかといったような刺激を与えているので、全くそれをやっていませんとは言いません。遊びの中で子供が興味をもってそれに向かっていくというところへ頑張っています。以上です。

委員長

ありがとうございます。それでは〇〇委員さんお願いします。

委員

中学校としましては、義務教育の最後の3年間を担当させていただいているというところから、主体的にたくましく自分の生き方を切り開いていく子供になってほしいなということを感じています。ほとんどの生徒が高等学校に進学するご時世ではありますけども、中学校で3年間学んでいる子供たちの様子を見ていても、やっぱり自分がどうゆうふうには生きていこうか、その場所もちろん九戸村であったり、日本国内のどこかの場所であったり、外国であるかもしれないのですが、どう考えるにしても将来像を自分なりに見つめながら、自分で判断をしてたくましく生きていってほしいなと思っています。そうしますと、主体性というところが一番合うのかなと思っていますが、けして今主体性がないという意味で言っているわけではないのですけども、誰かと一緒とかそれこそ指示を待ってというようなところも見えなくもないので、自分の人生を自分で最終的ではありますが判断して力強く歩んでいくということをイメージして、将来像というふうに考えております。以上です。

委員長

ありがとうございます。それぞれの委員の皆さんからは子供に求める姿がなかなか考えさせられることも多く、小規模少人数ならではのメリットもありますしやっぱり密接にかかわれる良さというのがあります。それから地域性がありますから自然体験だとか、あるいは地域を生かした部分での子供なりの知見を広げる環境の良さもありますので、そのあたりのところをもう少し子供たちに伝えればというところはあります。それがいずれ将来はぜひ九戸に帰ってきてほしいというような願い、意見もありましたし、そういうところではこれからの地域を作る子供たちがこの九戸に愛着を持ちながら、さらに九戸が抱える課題を解決できるような力をつけてほしいかなと思います。今回いろいろとご意見いただいていますけども、まだなかなかこの限られた時間ですから、いきなりこれから九戸村の子供たちにこんな力をといるのをこの場で話をしてほしいというのは、非常に困ったところが

あるかと思しますので、これは事務局にお願いになるかもしれません。各委員の皆さんにもう一度改めてこうゆう子供たちに育て欲しということをお出しただけの方がいいかなと思います。今お話をされたことでも構いませんし、ただいろいろ他の委員の話を聞きながら「こうゆうことを考える必要があったかな」とかそういう部分のいろいろな発想が広がったところがあると思いますので、そのあたりも含めてもう一度改めて期日を決めたうえ、文章でご回答いただければ、大変忙しいところで恐縮ですけどもそういうかたちでお願いしたいと思います。よろしいですか。特に尾友委員さん辺りはなかなか最初の方で回ってきて、まだ十分考えが練られてないということもありますでしょうしそのあたりのところ。それから中村委員さんはちょっとお話をいただいたのですが、また改めていろいろ他の委員のみなさんのお聞きいただいたうえで考えるところあるかと思しますので、そうゆうかたちですいませんが、時間がなかなかない中なものですからお伺いさせていただきますが、よろしいでしょうか。

委員

はい。

委員長

ありがとうございます。そういうかたちで次回のところで、もう少しこういう意見が出てくるのだけどということ整理をしながら内容を詰めていきたいと思えます。

委員

第一回目の会議の中で、いろんな資料とか要望が出されましたよね。その資料について、今度会議の中で出していただいてそれも議論を深めたいと思うのですがいかがでしょうか。

委員長

そうですね、私もそこは触れてないのでわかりませんが、事務局の方で準備しているところはありますので事務局の方からお願いします。

事務局 その他の方で説明させていただこうと思っていましたけども。

委員長

今ここで。

事務局

今資料は配付いただいておりますが、今の進め方とかあるいは協議に関してもし何かご意見とかご要望があればここで言ういただければと思えますがいかがでしょうか。

委員長

間に合いました。じゃあ資料が回ったところで事務局から説明。そのあとで私の方からこ

ういうふうな見通しでということ話をさせていただきたいと思います。

事務局

皆さん資料回りましたでしょうか。それでは簡単に資料の説明をさせていただきます。資料No.2-1についてです。これが九戸村の小学校の統合あるいは再編計画等の推移でございます。1番目が総合発展計画に見られる統合計画でございます。最初に出てくるのが18年からになります、九戸村総合発展計画の後期計画になります。その中で教育環境充実のため、学校統合を検討し推進し活動を計画していますということです。次の計画が新九戸村総合発展計画でございます。本来10年計画ですが、これになっていますので最後のところが後期基本計画となります。28年から32年という5年の計画になっています。この中では教育環境充実のため状況を見極めながら小学校の適正規模・適正配置の検討を進めますという内容でございます。今回の検討委員会に沿って進めていきますということです。それから2番の行政財政計画に見られる統合関係でございます。これにつきましては平成16年から始まっておりまして、16年のところでは当面村内3小学校体制を目指して統合を検討するという内容でございます。平成20年の4月から宇堂口小学校、旧宇堂口小学校が戸田小学校に統合していますので、ちょうどこの辺りが宇堂口小学校と戸田小学校が統合した時期でございます。22年のところでは小学校の統合については、当分の間予定はないものの将来に向けて検討するというので、プログラムの中ではおかれていません。それから24年のところでは、地元の要望があれば統合を検討していくということです。28年の行政財政発展計画の中では、学校統合するかどうかは、子供たちにとって望ましい教育環境をどのように作るかという意見を集約する中で検討することで進めています。2ページ目は、3番が教育を語る会の実施についてです。実施期間が平成18年2月17日から平成19年2月14日までの約1年間ということで、村内小学校を順次回ってございます。中身的な内容については各自でご覧いただきたいと思います。それから4番目としましては小学校統合に関するアンケート調査を実施しております。これも平成18年2月から平成19年まででございます。複式学級をどう思うか、学校統合についてどのように考えるか、統合の体制はどうか、統合する時期はというアンケートでございます。そして回答結果は右側のとおりでございます。それから最後のページが議会における統合に関係ある話があるものを抜粋したものです。平成16年の12月から定例会、予算の特別委員会等が出ていますので、その部分を抜き出して書いておりますので後でご覧いただきたいと思います。最後には28年3月の議会において、村長の所信のなかでこのように所信表明してございますのでご覧いただきたいと思います。それから資料No.2-2をご覧いただきたいと思います。田野畑村・普代村教育委員会の情報でございます。それぞれの教育委員会では、田野畑村に置きましては6校が1校に統合した。平成22年からでございます。それから普代村におきましては4校を1校ということで、これも平成22年からです。その中身的なこと、それから主な活動内容の経過が続きます。これも後でご覧いただきたいと思います。2ページ目につきましては田野畑の広報。地域懇談とかでこうやってきたという話がございます。それから普代村教育委員会の方では、小学校再編統合だよりということで載せてございます。資料2-2は以上でございます。それから資料2-3につきましては、東北・県内・近隣市町村の望まし

い教育環境整備に向けた取組状況でございます。一番上が一戸町それから久慈市の状況でございます。久慈市の状況は現在28年の7月までには適正規模の懇談会を実施して29年度に向けて計画の策定作業をしているところだそうです。一戸町につきましては現在統合の基準を設けておりまして、小学校20名以下、中学校30名以下になった場合にはということで、統合を検討するというところで28年の4月には一戸中学校と小鳥谷中学校が統合しています。それから29年の4月の予定では一戸小学校と鳥越小学校が統合予定でございます。それから2番目としましては、過小規模校から適正規模校といったような状況となっております。そこにある田野畑は先ほどお話しした通りでございます。普代村それから宮古市の旧新里村それから花巻市の旧東和町、奥州市の旧前沢町の状況が載せてあります。あとでご覧いただきたいと思います。それから学校統廃合の取り組みと教育環境の改善について3番目としまして、山形県小国町それから秋田県の大仙市、旧協和町、宮城県の色麻町の状況でございます。これも後でゆっくりご覧いただきたいと思います。2ページ目3ページ目のところですが、新聞のくりぬきの状況、それからそれぞれの教育委員会の出しているお便りの状況でございます。それから最後資料No.2-4でございます。小規模校を存続させる場合の充実ということで、小規模校のいろんなところの状況を載せてありますので、あとでご覧いただきたいと思います。地理的な理由により統合を対象とする市町村があるかないかという全国的な調査でございます。「ある」が20%、「ない」と答えた市町村が80%ですので、全部で1753市町村の中での20%、80%の数字ですので、「ある」のがほしい350市町村くらいかな。「ない」のが1,400くらいの数字という状況になっております。以下、学校統合を選択しない場合というのがございますし、3番には小規模校のメリットの最大化策、4番目は小規模校のデメリット緩和策、それから教職員体制の整備ということでのせてありますので、あとでご覧いただきましてのちほどいろんな質問が出ると思いますので、いろんなご意見ご質問いただければと思います。よろしくお願いいたします。

委員長

ありがとうございます。事務局の方から資料No.のNo.2-1、No.2-2、No.2-3、No.2-4の4つの資料の提示がありました。時間がないところでの説明というところでしたので、なかなかご理解厳しいところあったかもしれません。一応説明いただいたときにあとでご覧いただいて、次回のところでもしこれにかかわってということでご質問あるいは確認したいことがあれば、その際に確認させていただきたいと思います。今日は資料の方をお持ち帰りいただいて、時間はかかりますけどもごラインいただければと思います。合せてということで先ほど言いましたように、今日の議論の中心にもなりました、これからの九戸村の子供たちにはどんな教育が望ましいか、そのためにどのような力をつけることが望ましいか、あるいはどうゆうような子供たちの実態を踏まえた環境のことですね。こうゆう所が九戸村の良さ、それを生かしてほしいということあればご意見としていただければと思います。これは後ほど事務局の方と相談して、文書の方をお願いするというかたちにさせていただきたいと思います。

委員長

それでは時間が 5 時を過ぎてしましまして申し訳ありません。協議の方は一応終了とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。事務局の方に返します。

事務局

以上を持ちまして本日の委員会を終わらせていただきます。特に何もなければ以上で終わります。たいへんありがとうございました。